



日本ピグメント株式会社

# 2023年3月期 決算説明資料

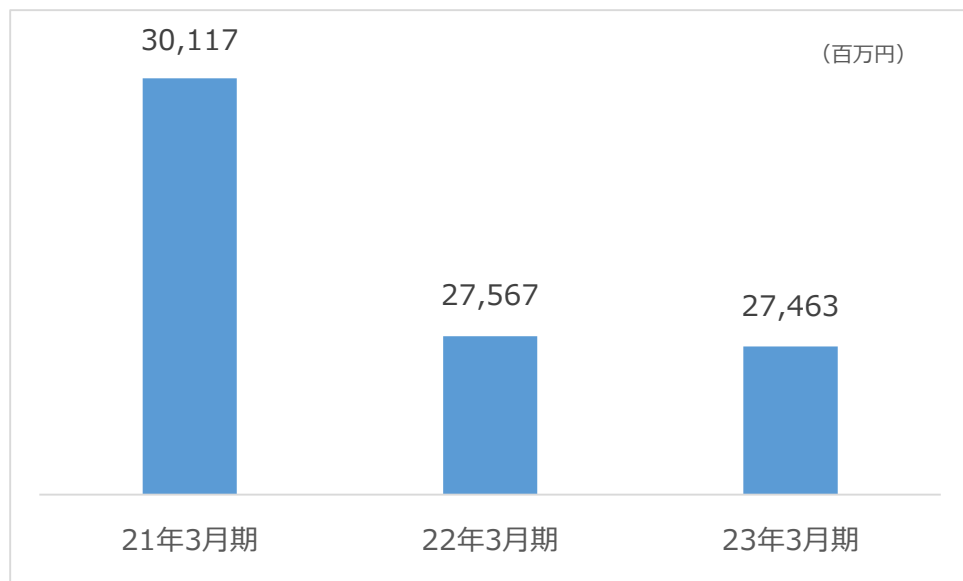
2023年5月12日

日本ピグメント株式会社

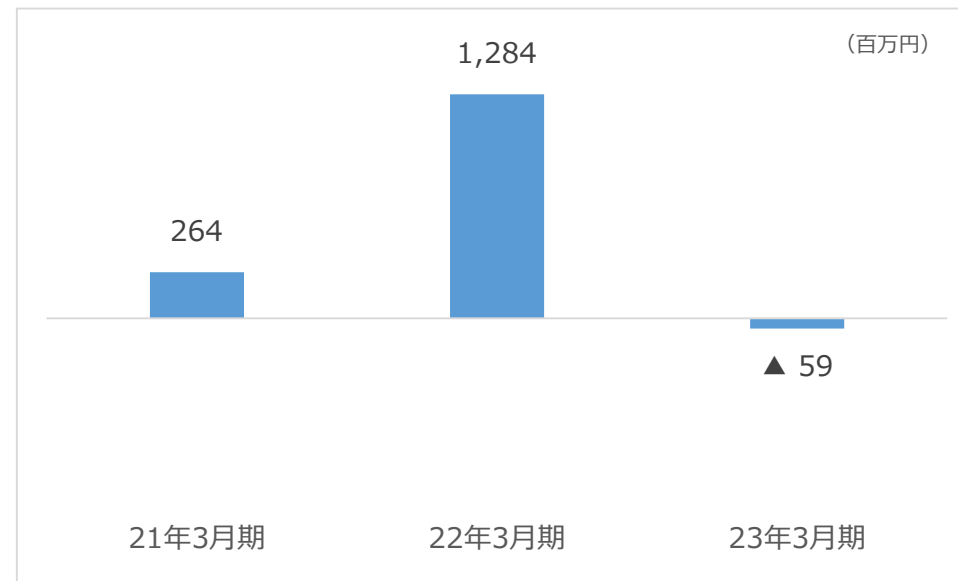
## 2023年3月期 業績ハイライト

自動車減産の影響を受けた樹脂関連在庫調整等から、売上高は減少  
 販売数量減少、原油をはじめとする資源高等による製造コスト増もあり、営業利益は悪化

### 売上高



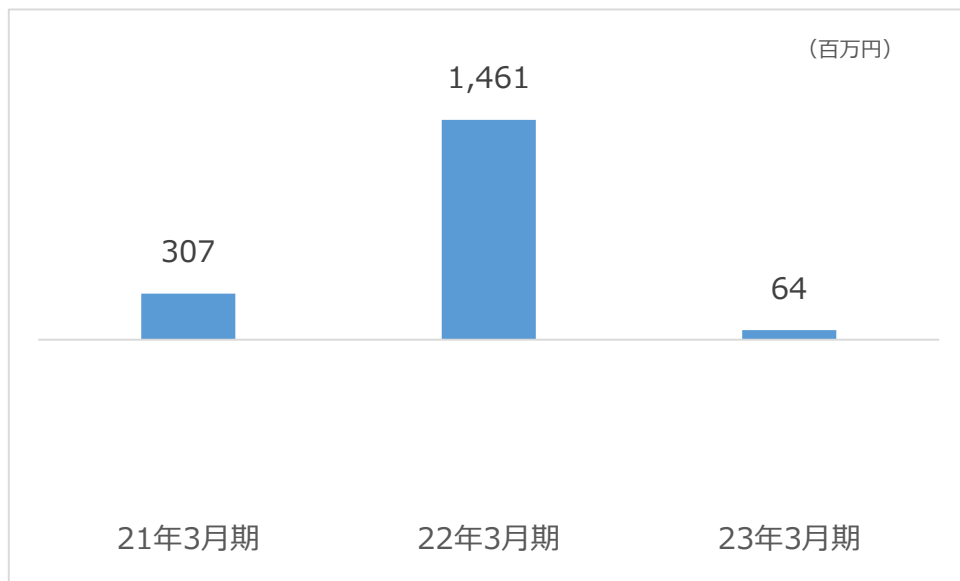
### 営業利益



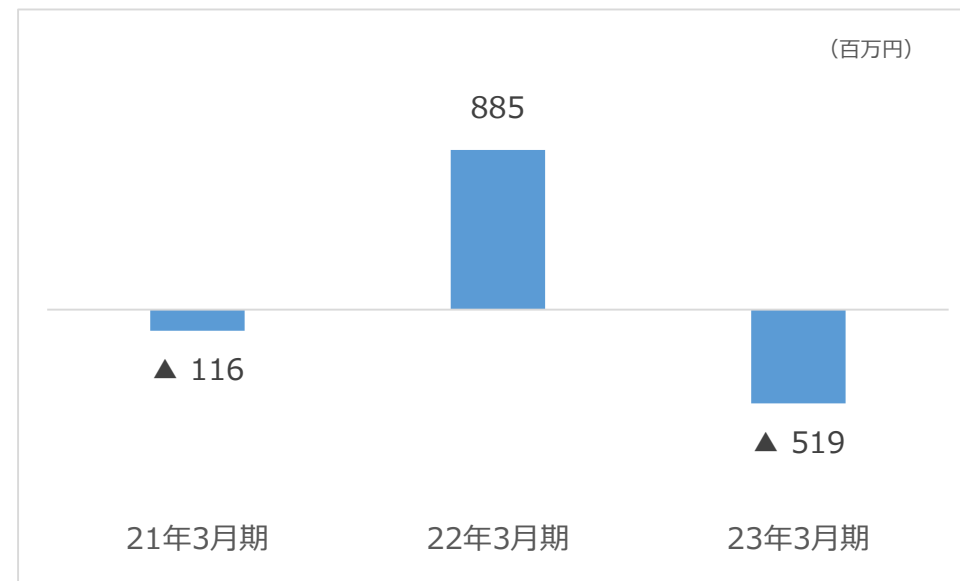
## 2023年3月期 業績ハイライト

経常利益は前年同期比で減益。親会社株主に帰属する当期純利益は液体分散体製造に係る固定資産の減損処理により損失を計上

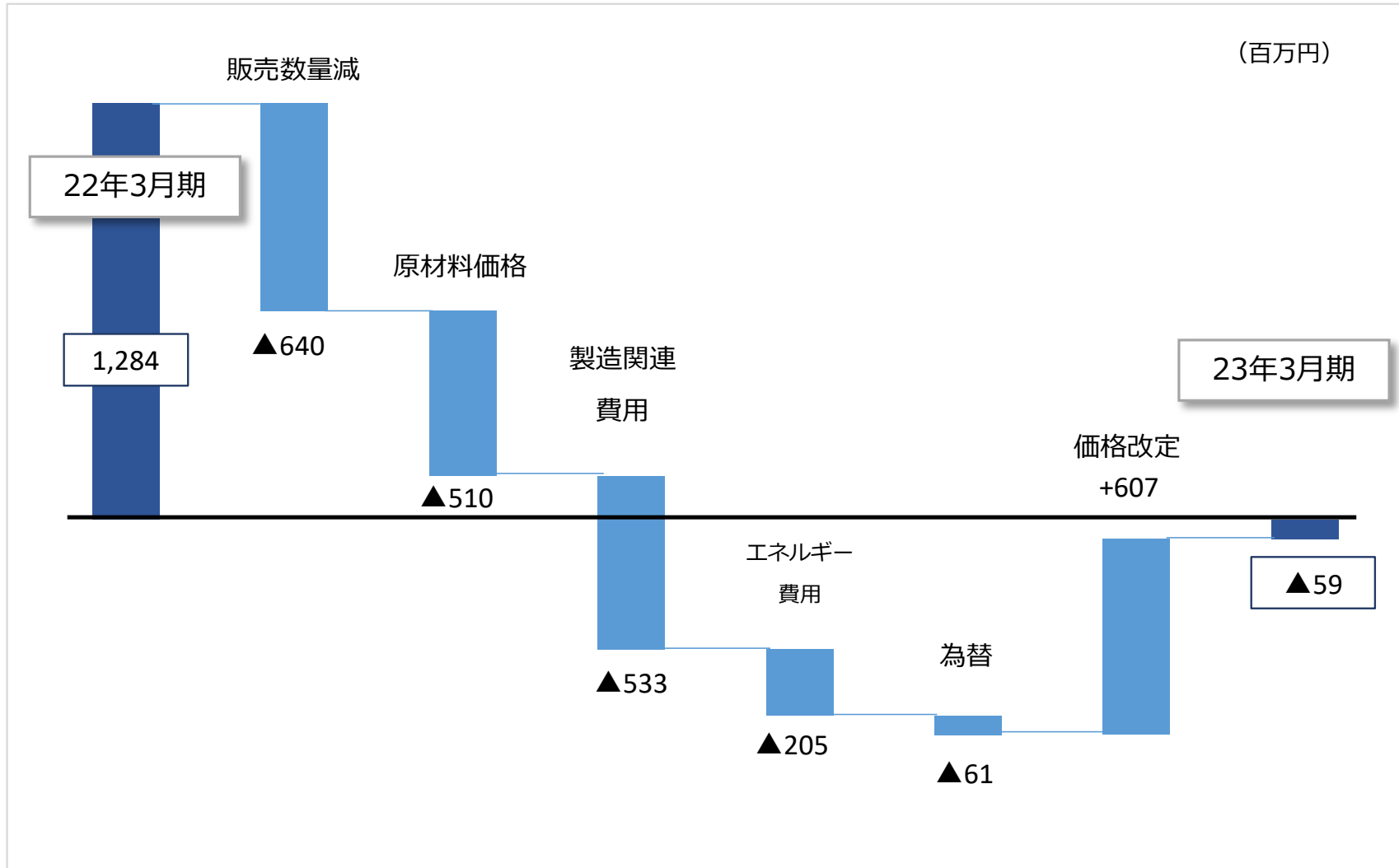
### 経常利益



### 親会社株主に 帰属する 当期純利益



# 2023年3月期 連結営業利益の増減要因



## 2023年3月期 セグメント別実績概況

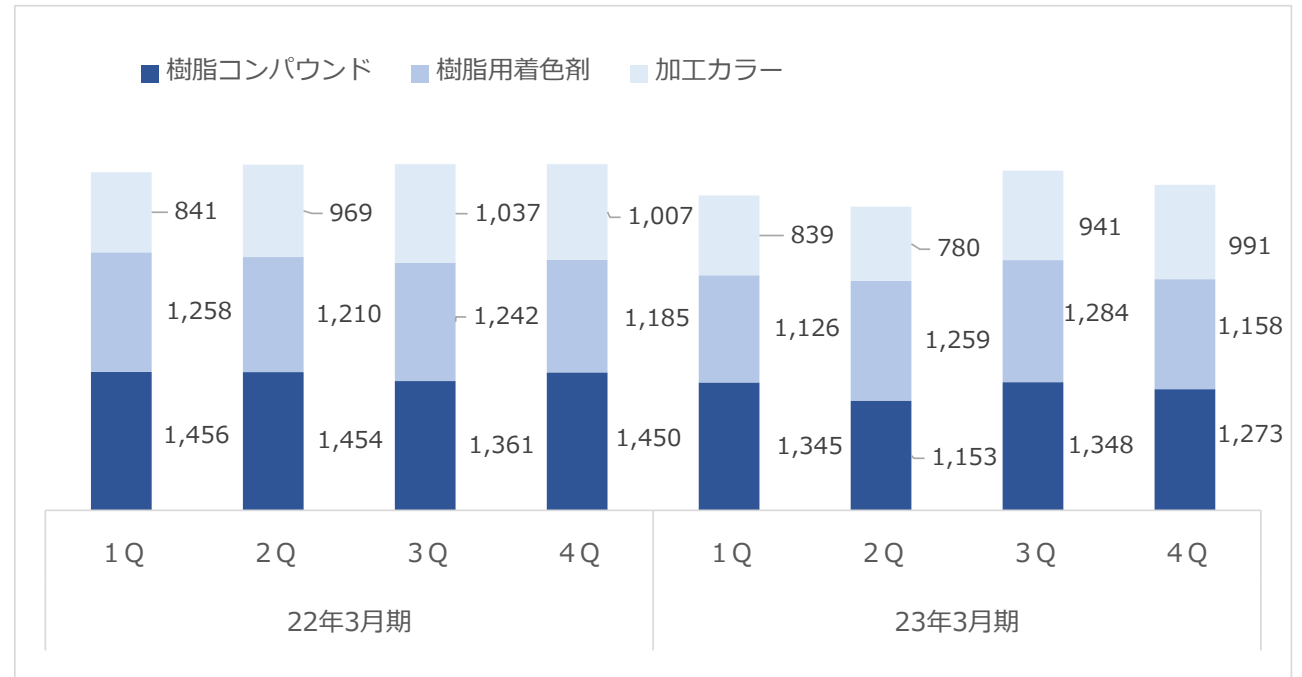
### ① 日本

○ 自動車向け需要の回復の遅れ等により国内売上は前年同期比で減少

- ・自動車向け半導体不足の影響が想定以上に長引き、樹脂全般で需要減少、樹脂コンパウンド部門は売上減
- ・樹脂用着色剤部門は、建材向け需要は堅調であったものの、フィルム、化粧品向け等の需要回復の遅れもあり、売上減
- ・中国ロックダウンの影響から、大型液晶パネル用途向け液体分散体需要が低調となり、加工カラー部門も売上減

【セグメント別売上高の推移】

(百万円)



## 2023年3月期 セグメント別実績概況

### ② 東南アジア

- 一部の原料不足、部材不足の影響を受けた顧客減産もあり販売減も、為替、原材料価格の影響もあり、売上高は微増

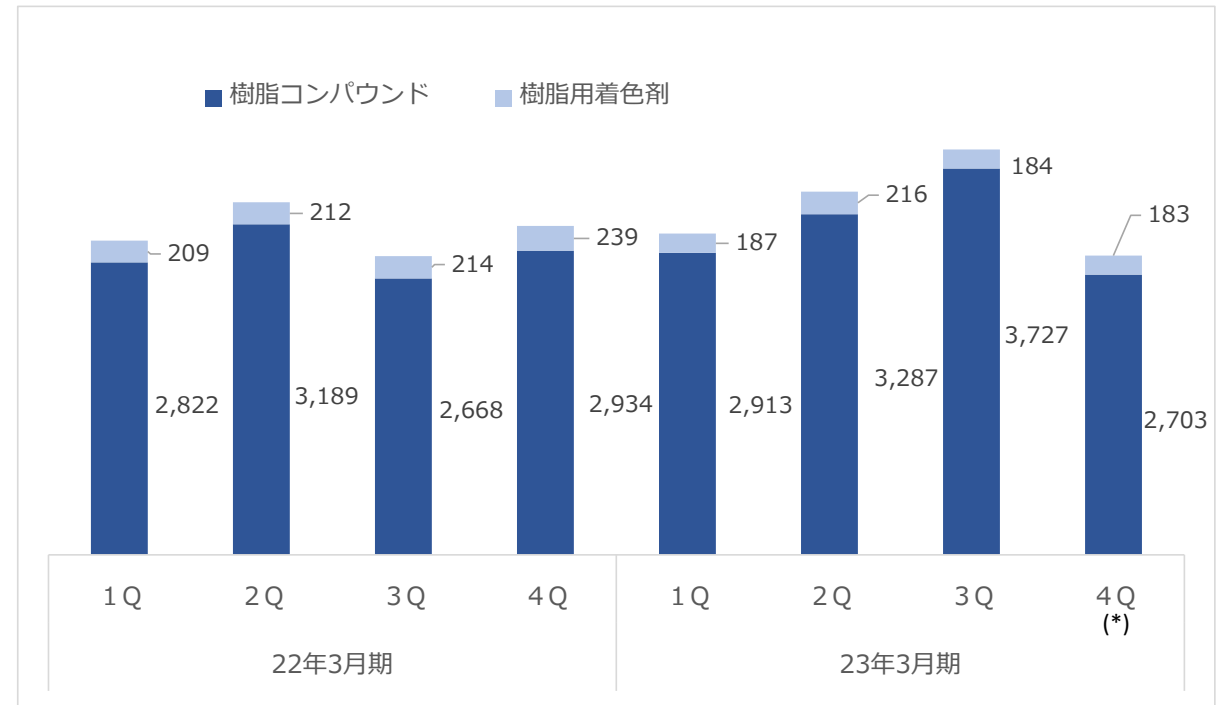
(\*) 第4Qについては為替影響により円貨ベースでの売上高は減少したものの、販売数量は前年同期比+0.2%と回復

23年3月期販売数量推移  
(前年同期比)

23年3月期			
1Q	2Q	3Q	4Q
▲15.4%	▲20.2%	0.1%	0.2%

【セグメント別売上高の推移】

(百万円)



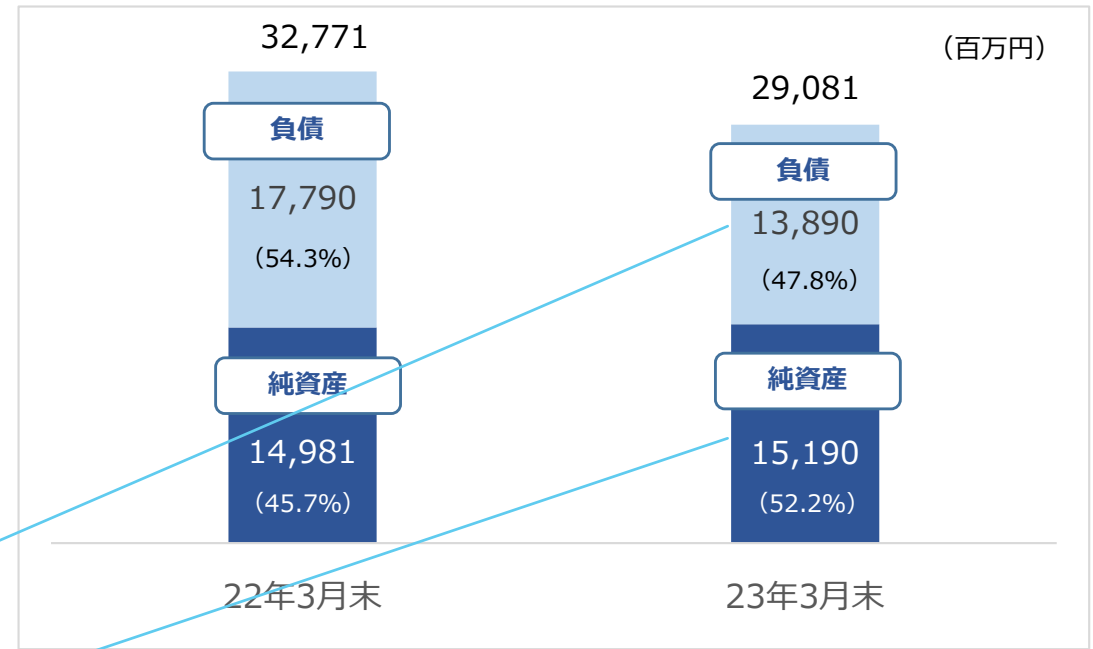
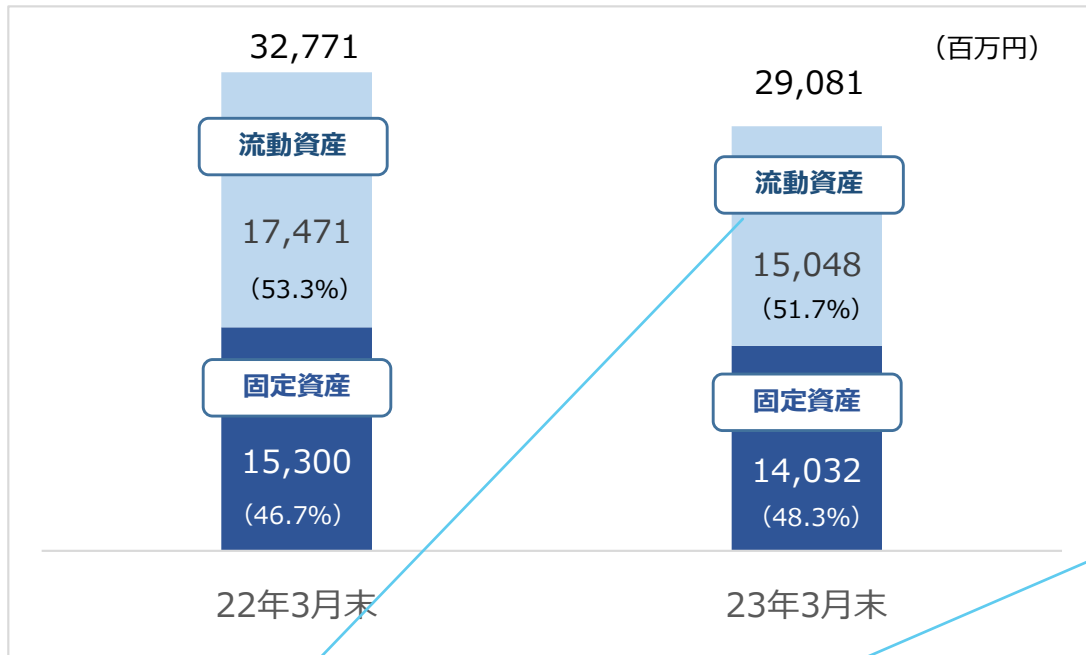
## 特別損失の計上について

- 液体分散体事業の製造を行っている児玉工場の固定資産を、回収可能額まで帳簿価額を減額し、減損損失を特別損失に計上

本件に係る特別損失額 ▲13億24百万円

- 特別損失計上に至った理由
  - ・ 液体分散体事業の需要先である液晶パネルの生産が、中国におけるロックダウン等の影響により2022年に大きく減少  
⇒ 2023年以降のパネル生産回復も緩やかなものに止まる見込み
  - ・ 本事象を想定を超える事業環境の悪化と判断し、固定資産の減損に係る会計基準に則り減損処理を実施

# 連結貸借対照表等の概況



## 資産

- 現金及び預金が減少

## 負債

- 長期借入金、短期借入金が減少

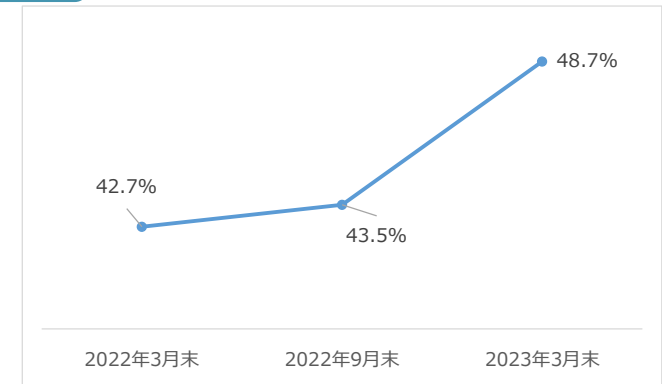
## 純資産

- 為替換算調整勘定の増加

## D/Eレシオ

0.45 (2022年3月末 0.65)

## 自己資本比率





## 連結損益計算書の概況

	22年3月期	23年3月期	(百万円) 増減率
<b>売上高</b>	27,567	27,463	▲ 0.4%
売上総利益	4,358	3,188	▲ 26.8%
販管費計	3,074	3,247	5.6%
<b>営業利益</b>	1,284	▲ 59	-
営業外収益計	322	350	8.7%
営業外費用計	145	227	56.6%
<b>経常利益</b>	1,461	64	▲ 95.6%
特別利益計	22	392	1,681.8%
特別損失計	122	▲ 1,325	-
<b>税金等調整前当期利益</b>	1,362	▲ 869	-
法人税等計	411	▲ 355	-
<b>当期純利益</b>	951	▲ 514	-
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	885	▲ 519	-

## 株主還元について

- 当社の配当に関する基本方針は、株主の皆様への安定配当の継続を基本に、当期と今後の業績及び営業基盤強化のための内部留保を勘案して決定

⇒ 2023年3月期配当額は、従前公表のとおり1株あたり100円を予定

	2021年3月期実績	2022年3月期実績	2023年3月期予定
1株あたり配当額	50円	100円	100円

## 2023年度の事業環境見通し

- 足許の外部環境は、①自動車生産回復の不透明感、②資源価格の高止まり、ユーティリティコスト上昇の継続、③円安傾向の長期化など、厳しい状況が継続する見通し

### 日本

- 自動車向け需要は2023年下期に向け緩やかに回復の見込み。一方、製造関連コストは高止まることから、一層の効率的な運営を推進
  - ・ 樹脂コンパウンド部門は、自動車向け等での半導体不足の影響は残るものの、売上回復を見込む
  - ・ 樹脂用着色剤部門は、建材関係は堅調推移。その他向け用途での販売増を目指す
  - ・ 加工カラー部門は大型パネル用途向け需要の緩やかな回復、建材向け用途等、内装材関連の堅調推移等での販売増を目指す

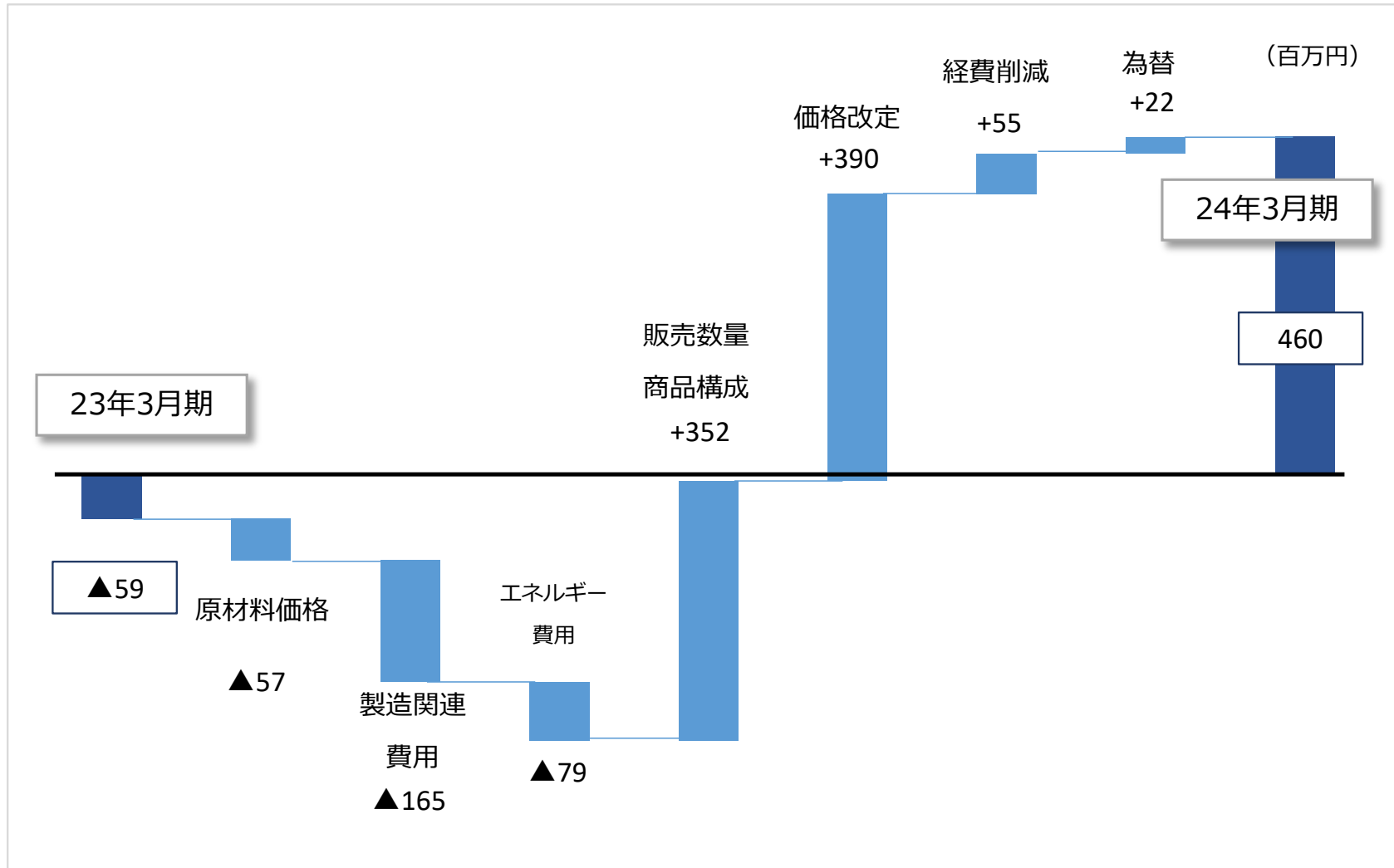
### 東南アジア

- 東南アジア各国での自動車生産の堅調推移を見込み、中国内需の回復の遅れ、原材料価格の高止まり等のマイナス要因はあるものの、増収を目指した運営を継続

## 2024年3月期 通期の連結業績見通しについて

	23年3月期	24年3月期 見通し	(百万円) 増減比
<b>売上高</b>	27,463	30,700	11.8%
<b>営業利益</b>	▲ 59	460	—
売上高営業利益率	▲ 0.2%	1.5%	—
<b>経常利益</b>	64	600	837.5%
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	▲ 519	350	—
1株あたり当期純利益 (円)	▲ 331.17	222.96	—
<b>年間配当/株 (円)</b>	100	100	—

# 2024年3月期 連結営業利益の増減要因



## (ご参考) 事業セグメントと主要製品

樹脂コンパウンド	樹脂用着色剤	加工カラー
 <ul style="list-style-type: none"> <li>・強化樹脂コンパウンド</li> <li>・難燃性コンパウンド</li> <li>・帯電防止コンパウンド</li> <li>・導電性コンパウンド</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーマスターバッチ</li> <li>・機能性マスターバッチ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 紫外線吸収マスターバッチ</li> <li>－ アンチブロッキング性マスターバッチ</li> <li>－ 帯電防止性マスターバッチ</li> <li>－ 抗菌性マスターバッチ</li> <li>－ 保温性マスターバッチ</li> <li>－ 耐傷付性マスターバッチ</li> <li>－ 長期耐熱性老化防止マスターバッチ</li> </ul> </li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹脂用加工顔料</li> <li>・高分散型液体分散体                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－ カラーフィルター用、インクジェット用顔料分散体</li> <li>－ 環境負荷の少ない水性インキ及びそのメジウム（クリヤー液剤）などの顔料分散体</li> </ul> </li> </ul>

- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません
- 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません  
また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります

色のプロフェッショナルとして80年



日本ピグメント株式会社